

資料「青森県における凶作地実況（1903年）」その2

矢上克己

A bad crop place real condition of 1903 in document Aomori(II)

Katsumi YAGAMI

はじめに

本資料は、東奥日報特派員、藤澤生が1902（明治35）年の凶作の被害著しい青森県の南部地方（上北郡、三戸郡）を踏査巡視し、東奥日報に1903（明治36）年3月31日～同年5月3日まで26回にわたってレポートしたものの一部（13から26報まで）である。なお、第1報から第12報については、本誌前号（清泉女学院短期大学『研究紀要』第32号2013pp.57-76）を参照されたい。

⑬雑報 凶作地実況（第十三報） 特派員 藤澤生

五戸村の窮民実況（上）

單に五戸と云へば南部地方に於て市街地をなす町村の一に数へられ、数多の村落に圍繞せられて市には日々の人出も多く商況も可なり賑かなる所なれど此の村は戸來と同じく全村を通じて五戸村と僞し別に大字を以て区分せざるが故に市街地の五戸にありてこそ重に商業を以て市をなすも支村部の五戸は即ち普通の村落にして民情風俗及生活に於て等しく百姓たるなり昨年の凶作に依りて五戸の窮民と僞するものは多く此の支村部の五戸に在り市街部の五戸に在りては四五の窮民を除くの外凶作の影響として市況の不賑を來したる外は別段の變りあらず然し本村の支村部は戸來、倉石は云ふ迄でもなく恐らくは野澤、猿邊の窮民以上に惨情の度を高め居れるは特に注意すべきとなりとす本村総戸数千五十一戸にして部落民は其の過半を占め居れり現に外国人の寄贈に係る米穀を給與せられ居るもの三十九戸九十五人村有志の救助を受け居る者三戸三人にして目下は救済を受け居らざる細民は却って窮迫を感じ居るが如く為めに救助を乞ひ來る者続々現はると云ふ初め窮民の調査は戸來の全戸数四百一戸に對する窮民九十二戸二百二十六人倉石全戸数五百十三戸に對する窮民六十四戸百五十八人等に比し人口の多き割合に窮民数の甚だ多からさりもの其の後続々窮民を出すに至れる原因なるべし

◎被害の程度 米作に於ては水田總反別三百十四町三反に對する收穫高些かに三百二十六石にして之を平年に比するに二千八百三石の減収なり即ち辛ふじて一分作を収めたるに過ぎず次に畑作雜穀中の重なるものに就き昨収石高を見るに

	作付反別	收穫高	平年に比し減収高
麦	830 反	508 石	303 石
大豆	1980	198	444
小豆	114	5	722
粟	1474	563	454
稗	985	394	199
蕎麦	756	51	317

右の數種に就き總体を合算すれば總収石高は千八百十九石にして平年に比し實に三千四百二十九石の減収なるが如し左れど前掲の調査に依れば大豆は平年とも一反歩より些かに三斗二升餘の收穫あるに過ぎるが如くなれど是は何かの誤りなるべく少なくとも一反歩よりの平年收穫は七斗を下らざるべくサレバ本村に於ける昨年大豆作は約四百六十石位は之を取めたるならんか又稗の如きも平年とも一反歩より些かに二斗餘の收穫に過ぎざるか如き調査なるが之も何等の調査落ちなるべく元來稗の如き之を如何に粗質なる土壤に植うるも一反歩平年作は二石を下るものに又あらずとすれば本村の昨年稗作約千石位はありたるならん次に蕎麦の如きも平年一反歩一石收穫あるが通常とすれば此の收穫に就ても尚ほ昨年収高を増加して現はし得らるべきが如し

◎被害の影響 右の如き被害を見たる本村の之か影響如何と云ふに先つ市街部五戸に於ける商業の不振は非常のものにて例年なれば附近村落の農民は何かの穀物を駄馬或は自ら擔ひて町に出で之を賣りて日用品を買ひ行きたるものが目下に在りては多くは空手にて町に入り來り少し許りの穀物を購めて擔ひ去るが一般の狀況にして穀物以外の物は殆んど賣れ行き中止の姿なり為めに穀物商以外の商家は金融の切迫に馳られて嘆聲を漏らし居れり又支村部落に在りては売出し主要穀物たる米、大豆、粟等何れも非常の減収なりし為め食物の欠乏に次ぐに生活上の諸雜費を支辨する能はず為めに豫想外の窮迫を感じ居れるが如し然し本村の如き市街地を控え居る村が斯かる不景氣の場合には町村に出でて何等かの労金仕事に従事し得べきが如しと雖も實際は凶作の影響として五戸の市街地に於ける總ての事業は全然中止の姿となり些かに一二の水車場と経木の工場とのみ多少の雇人を使用し居るに過ぎざるか如し之等のものもあまりに賃金低廉なる為め一家の生計のタシキにし得るが如き賃金は之を得難き由なり又た此の村の一部にては従來共多少の藁細工を産し居れるが目下の所にては藁さい漸く缺乏の姿となりたるより其の値段一束（六把束ね）十錢内外に騰貴し居りて藁の貯なきものは之を講ひて細工物をなすも却つて勞して益なき有様にて当事者の如き殆んど之を奨励するに力なしと嘆じ居れり右の如き狀況なるが故に諸税を滞納するもの続々出で滞納額は目下千数百圓に昇れり且つ全村通じて戸数多き丈けに役場には窮民に関する事務増大して通常事務は一つも方付かね有様なりと云ふ又支部落とには一名宛の役場員を廻はして日々窮民の狀態の移異を調査し居るなども役場事務に影響する尠からざれど戸数多き丈け斯く迄に注意せざればあるいは餓死者を出すの憂もあれば之れハタ止むを得ざる次第なりと云ふ学校には別段の影響なけれどヤハリ支部落の子弟は中飯の携帯に困難し居るは猿邊戸來地方と一樣異なりなき有様なり次に本村に於ける凶作の影響として尤も注意すべきは高利貸の繁昌なるべし即ち高利貸等は此の期に乗じて田畑を擔保として少額の貸金を高利を附しドシー〜貸出しをなし居ることにして之れヤカテ支部落の部民及近村たる倉石村あたりの農民が数年に於て逢着すへき難關たるへし注意すべきことなりとす¹³⁾

⑭雜報 凶作地實況（第十四報） 特派員 藤澤生

五戸村の窮民實況（下）

◎目下の慘況 本村に於ける支村部は一樣なる被害と一樣なる慘況とに在り市街部に在りては腰掛澤尤も窮迫の狀況にあるも之等は凶作に依りて全然衣食に窮するに至れりと云ふよりは不景氣にて生活の困難を重ねたりと云ふのふさはしかるべく窮民の多くは老、病又は数人の幼者を控え居りて或る方面より之を觀る時は救恤規則等に依りて救助するの勝れるに如かざるもの多き有様なり従つて市街部の五戸窮民は部内腰掛澤以外の五六の窮民も又此の狀態たるに外ならず然して支村部市街部を通じて之等の窮民の目下の食料は大体に於て倉石地方の窮民とサシタル相違なきも漸く山谷を遠かると共に次第に補助食料尠なく本村に在りては先つ蕨根の如き偶々之を得んとするには三里乃至は四里位も山に入らされは之を採掘すること能はざる有様に強いても此の有要なる補助食料を得んとするには口に迫はるゝの恨みあり藤葛根の如きも近

くまでは中々掘りとれず為めに本村の窮民等此の澱粉質の補助食を下缺きて多くは菜葉、トコロ芋、大根、稗糠のみを多量に用ひ居るか故食物に於ては寧ろ戸來倉石に比し惨情を高め居り従つて實際の窮乏苦病も慥かに戸來倉石以上に在るか如く本村に入りて他村に之を見るを得さりし食物は干梅實の一種れとこは需要満たす程あるものに非らず只本村は重に市街地の五戸を以て知られざるより其の窮民の惨情も又従つて多くしられざるものならん又本村の支村部の窮民は松皮餅を拵えて農仕事中空腹を家事たる時に之を用いんとするも何分にも村の領域内には松木の甚た藪なき為めに其の皮を得るに途なく強いて之を得んとすれば勢ひ他村の山林に入りて之を剥ぎ取らざるべからざる有様なれど所謂盗心は食の不足より起るてふ諺に漏れず此の村の窮民は倉石地方の山に入りて松の木より窃かに其の皮を剥き來りて松皮餅をつくり仕事中心もじさの腹拵えをなし居る有様にて其の身体の苦痛に加へて心に迄も藪なからざる苦痛を感じ居るか如き尤も同情に堪えざる所なり先づ一般に他方人の目する草根木皮と迄には行かされと随分の粗食をなし居れり又中には幾年前より病苦と貧苦にやつれて見るかげもなき一窮民が古ひたる口ゴを被りて打ち臥し傍らに十四五才の少年か消沈したる姿にて侍し居たるかあり一見人をして泣かしむの惨況なるがありしも之は或る關係上是迄救恤規則に筈らざるものなりしか今回は漸く其の規則に照らして救助する様になりたりと云ふ予も此の窮民につき此の事を聞いて恰も擔荷を卸したるの感をなせりき次に市街部の窮民に比しては一般に食物は良き方に見受けたり

◎要するに 本村の支村部は一様なる被害と一様なる窮境とに在り為めに一般窮民と併せらるゝ者の中に就ては實際他人の助力を乞はされは生活の途を得難きものと自力を以て一奮発たになさは他人の助力をと受けずにトウなり今秋迄で保ち得べきものと二種に分つを得べし無論前者の少数にして後者の多数なるは云ふ迄もなし初め本村は窮民の程度を調査するに多少酷に失したる点ありしが為め現在支村部に在りて彼の外人の救助を受け居る者の外尚ほ二十戸の窮民を加へて之を四十戸二百三四十人として見るも予の見所の大なる誤なき限りは其の半数以上は自ら勞して食はしむるの勝れるに如かざるか如し次に

◎今後の救済 の点より見る時は曩きに本村の有力家は一小救済會様のものを設けてもあり且つ部内の兎内よりは従來とも可なりミノ及バオリ(共に菅を以て造りミノは普通のものなれどバオリとは津軽のトコマンボを云ふなり)を産出し居れば此の際之を奨励して可なるべく藁細工も南部地方中本村は有数の部たれば大ひに之を奨励する時は可なり窮民の副業として之を待つに足るへし只此の地方には藁拂底の由なれば有志の者は協力して他府縣より之が輸入をなすも又一方ならん其他本村には多数の水車事業及経木の工場もあれば資本家は此の際多少の不景気を厭はず將來の利益を主眼として充分事業を擴張し労金にて窮民救済の手段とするも又自村細民に盡す所以なるべし産馬の如きも五戸産馬組合と云へは随分有名のものなればヨシ産馬の如き目前の利を見難きものなりとは云へ一兩年の後には大ひに村の富源ともなるものなれば資力の如何に依りては之か改良をなすも可なるべく植林事業實行は本村にては尚ほ未定なる此の際多少の村債を起してなりと縣補助を基として起業する時は窮民救済の一方として優に其の目的を達し得べきか如し又本村は縣債工事施行の箇所とは倉石地方と同しく随分遠隔し居れば或は多

数の窮民は思ふ様に之れか救済に與かるを得ざるべきかコハ猿邊より本村に至る五ヶ村とも同一の状況にあるが如し

▲本村にて三戸郡に於ける被害の尤も甚だしかりし地として傳へられし七ヶ村の實況を報じたり只本郡に在りて此等數村と其の被害慘状を等うせる市川村は視察の道程の都合上之を視察するを得ざりしは遺憾也き先つ大体の上より觀る時は本郡には充分世の慈善の同情を乞ふべき窮民は各村とも即ち之あり然れども假りに數字上の觀察を示す時は現に各村とも何百を以て僣し居るものゝ三分の一弱に過ぎざるべしと存す他の一般の窮民は恐らくは奮發次第にて他人の助力を乞はすとも今収期を待ち得べき状況なるが如し縣、郡、村当局者及縣一の洽ねき有志家の一考を煩はす所なるべく其口救はされは死す低の者は速かに之を救ひ他労作を勧めて自活の法を立てしめ得べき者に對しては夫れ相應の方法を講じて可なるべしと信ずるなり次には上北郡に於ける凶作地に移るべし¹⁴⁾

⑮雜報 凶作地實況（第十五報） 特派員 藤澤生

三戸郡に於ける凶作被害の尤も甚たしき村落として田子、上郷、猿邊、野澤、戸來、倉石、及五戸の七ヶ村を視て後上北郡に向ふ先つ郡役所に就て本郡全体に亘り一應尋ねたき事項もありしが五戸より上北郡役所々在の七戸に至る其間上北郡中被害の甚たしき箇所として四和、三本木（但し一部）及大深内の三村あるが故に先つ道程の順々として此の三村に就き視察することとしたり

▲四和村の窮民實況

本村は先つ上北郡中の高原部に部落せる村なり為めに全村を通じて田は少く畑地は割合ひに多し然し田反別は畑に比し少しとするもソハ上北郡内の各村に比し少なきにて之を三戸郡の陸奥山脈の麓に村落し居る猿邊、野澤、戸來の諸村に比しては人口割に照して確かに多し村は米田、傳法寺、大不動、瀧澤の四大字に分れ全戸數五百二十余戸に對し目下窮民と僣し居るもの四十余戸二百三十余人なりと云ふ

▲被害の程度 水田總反別二百八十三町七反に對する昨年收穫は些かに四十四石平年作に比し實に四千四百五十六石の減収なりと云へは先つ本村は皆無作を以て僣し得べし次に畑作に於ては主要雜穀たる大、小豆、粟、稗、蕎麥を通じて三分五厘作なりしと云ふ之を農學者に聞くに昨年於ける農作の被害は海岸部及山嶽に接近したる部面程甚たく其の中間にあるものは比較的被害の程度薄りしか一般の情況なりと云ふ然るに本村を以て假に三戸郡の野澤むらに比するに巒山起伏の間にある野澤にして尚ほ田反別些かに百四十四町四反に對する昨年収石は八十石なりしと云ふに反し山と遠かり海と遠かりし本村が田反別に於て野澤に倍するものあるに拘わらず収石は却つて野澤の半に過ぎざるか如き成績を示せるは其の原因を知るに苦しむ所なり

▲被害の影響 別段三戸地方の諸村落と異りあらず即ち村税を滞納するもの多く細民は売出し主要物たる米、大豆、粟に於て何れも非常の減収を見たるより日常是非に要する諸費用を得るには非常の苦痛を感じ居るものゝ如し又本村も産馬地としては有名なるが昨秋不作の結果牛馬價格は殆んど半減せる為め産出者は思はしき賣捌きを見ざる有様にて之等は此の地方に於る尤も

大なる影響なるべし次に本村には各大字和に一校宛の小学校ありて三戸郡の被害村落と同じく生徒は学校用器や其他中飯の携提に困難するもの続々出でしが村内の有志は國民教育上大に之を憂え村會の決議を以て之等窮困者の子弟に夫れぞれのほうほうを講ずる所なり能ふべくんは学校にて中飯を賄ひ教科書の如きも村費を以て之を賄ひ與ふるに協議中なりと美擧と云ふべく多少の障碍を排しても断行の運びに至られたきものなり

▲目下の惨状 本村に於ける窮民生活状態の惨況も別段三戸地方各被害村落と異りなけれど蕨根は殆んど皆無藤葛根の如きも容易に之を得られざるが如きは此の村の窮民尤も苦痛を感じ居る所にして目下の食料としては重に稗糠、トコロ、大根、菜葉を其の大部分として之に外人の救済米を加へて粥をつくりて食し居れり鍋の中の残物を見るに澱粉質の補助食なきか故に一層粗悪のもの見えたり窮民中にも多少粟、稗をもちて之を粥に加へ居るは先つ体のよき方にて四十余戸の窮民中其の如きは二分の一に過ぎざるべし又本郡に入りて新たに補助食の一種を見たり即ち河原ヨモキと云ふものにしてコハ重に多少の米又は粟を混して餅に搗き上て食し居るか如し之を味ひたるに可なり食べさうな味あり次に本村は三戸地方の猿邊野澤邊よりは多少民情も進歩し居るより居住の周囲は大抵は掃除されオリ一通りの觀察にては窮民を以て目されさるか如きも其の實納戸や部屋を開けて見ても一物をも貯へざるが多き有様なり十四日以前此の村には稗糠を多量に食したる為め無惨にも糞詰りして悶え死にせる少女ありし由なるか村落の事とて醫師にかけたる譯にもあらざるべく果たして事實とすは誠に気の毒に堪へざる次第なり

▲要するに 本村の窮民は村全戸數五百余戸に對する四十戸は眞に窮迫に苦しみ居るものなるべく傳法寺の本村及米田の笹畑、森越、燦畑、長下、松久保等の數部落には窮民尤も多數なるが如し大字大不動の宇古屋鹿は一部落七八戸にして何れも裕福に暮らし居れり此の處は昨年於て比較的良作を取めたにもよるべけれど先つ平常に在りて辛棒者多きが其の良原因なるべし先つ概して此の地方の農民は酒を嗜むの点に於て歩調を同じうし得れば答み呑めは度を失ひて家業にもウトくなり従つて貯へと云ふものは夢想にも及ばざる所なり全体の上に酒呑み多き部落に窮民多きも之に依つてなり

▲今後の救済 是れぞと特に云ふべき程のものなく只植林の事は二十町歩丈は何れ實行の方針にして其他縣債工事には成るべく出役を奨励する者なりと云ふ外に農民の副業としては何事もなく毎年秋穫後にはゆる／＼穀物を仕上げて食ひ續け又翌年の秋穫に至ると云ふ有様故今更何かの副業を奨励して急に生活の困難を免かるゝと云ふ譯にも行かざるか如し幸ひ此地方には同姓を名のるもの多くコハ村の資産家は大抵分家を立つるより斯様に同姓のもの斯く部落に多き譯にて今回の如き多數の窮民を出す場合は數戸の分家を出せし大家なるもの各自分家に粟の五升なり稗の一斗なりちよい／＼續けて其の急を救ひ居る習慣なりと云へば先つ此地方窮民は多少は安堵し居ることならん¹⁵⁾

⑩雑報 凶作地實況（第十六報） 特派員 藤澤生

四和村の窮民を視察して後大深内村に向ふ其の途中に藤坂村と三本木村とあり共に昨年の凶作に依りて生じたる窮民は多く人の耳目に触れざる所なるも両村とも其の一部には五戸四和方

面の窮民と敢て懸隔なき窮境にあるものあり行途の序故數時間をさきて視察することとしたり

▲藤坂村一部の窮民 此の村は相坂、藤嶋の二大字に分れ本縣第二の大流として鮭漁を以て有名なる相坂川（一名奥瀬川とも云ふ）を挟めり此の川は灌漑稍々廣く沿岸の水田は平年に在りても上北郡中有數の豊穰地にして昨年の如きも本村は郡内他村落に比しては先づ我慢すべき収穫を見たるが如し去れど此の村に在りても大字相坂の字六日町（五十戸位）及河原新田（三十戸位）の二部落には随分の困窮者も尠なからず外国人の救助米を分與せられ居る者此の両部落のみでも十數戸に及べり但是等の窮民は平常とも貧しく暮らし居りたるものが昨年の凶作に遇ひて一層其の窮乏を重ねたる一部分に過ぎされは被害の程度より云ふ時は村全体を以て特に報道すべき必要もなきが如し又ソガ影響の如きも一般に人気引き立たす極めて不景気なりと云ふに過ぎざる有様なり元來此の村の両大字の本村とも云ふべき相坂の相坂及藤嶋の藤嶋は國道に沿ふてもあり名流を控えても居ること故先づ上北郡中に在りては一般に進歩したる町風の村なり故に村民も多少耻と云ふ觀念に強く他人の救ひを求むるが如き潔しとせざるの氣風あり然し夫れ丈け随分困つて居る者あるは當然の事なり先づ六日町及河原新田の二部落に於ける窮民目下の食物を見るに少量の救助米に大根を細沫にしたるもの及トコロ芋を細沫にしたるをも加へて粥を造りて之を食し多少粟稗を所持して之を加へ居るは窮民中にも体のよき方なり又此の地方にも澱粉として凶年の有要食料たる蕨根は極めて少なきが故食物は栄養分に不足なるが如し然して住居の如き此の村の窮民は村全体か進歩して屋構え其他か見苦しからさる中にあるが故に殊に慘状を示し居るか如く見ゆ

要するに此の村は一般に豊かに暮らし居るものから其のうちの窮民と云はるゝは格段なる懸隔をもてる窮境に在り只此の村の有志に望むべきは全体に餘力あるもの多きか故に自村の少數の窮民を自村有力者にて救済する様何かの方法を講せられたきもの也

▲三本木一部の窮民

此の村は三本木、赤沼、切田の三大字に分る中に就き大字三本木が國道に沿ひ市街をなし戸數は四百戸内外にして軍馬補充部支部や縣立畜産学校や其の他澁澤榮一氏の開墾事業等もありて總ての方面に於て可なり繁昌し居れり今本村の篤志家某氏が後日の記憶にとて書き記るし置けるものを得たれば参考の爲め記報して後予か視察したる状況を期すべし

◎世人の知らるゝ如く吾か村は安政二年中の開村にして御維新に廢村せんとせしを明治五年菱田青森權令舊會津藩士を此に集め開墾を行はしめしに依り稍や景氣附きたるも數年ならずして廢止せしを以て再び衰頽せるが其后明治六年藤田重明等開墾株式會社を起して疎水工事を初め澁澤男爵の農場開け越えて十八年軍馬育成場（今の補充部）設けられ三十三年縣立畜産學校設置せられたるより一時農事土工大に起り評判高ありし爲め土方等の手間取りに諸方より集りて無財産にて新世帯を持ちたるもの多き爲め之等の者は凶作の影響にて五穀騰貴し手間取業減少せる旁々続々困難に陥り今や飢饉に迫るもの大字三本木にて五十戸に上れり

◎町方の窮民多くは借家なるに依り家屋餘り見苦しからず目下の食物は外國米麦粟等の粥に干菜大根杯を刻みて加へ居れり又見廻りを視れば甚敷汚染せず一通りの見方にては窮民とは見受けられず又在方の窮民は之に反し掘立小屋に破蕘を扉となし内に入れば切れ蕘や藁の中に起

臥し身に襤褸を纏ひ皮膚垢染みて見苦しく目下の食物は稗糠や『アモ』（蕨の粉を取りたる糟）等を多分に用い居る故如何に極窮如く見受けらるれど能く能く内情を搜くれは町家の窮困者多くは孤立にして親戚縁者の頼寄るべきなきを以て其日其日の一合買ひを為して纔かに糊口をし居るに反し在方の窮民は親類あり大家（本家のこと）ありて頼寄るべきものあるを以て在方の窮民は町方の窮民よりも凌き易き有様なり

◎三本木村窮民一百戸へ凶作につき種籾四十三石を下附ありたるが其の下附方は甚た穩當を缺けり即ち大字赤沼へ十一戸同切田へ八十一戸ありたるに同三本木へは戸數尤も多きに些かに八戸のみなりき為めに部民は大ひに憂慮し日々役場に押寄する有様に村長も一時は當惑の様子なりしが素官廳の詮議に出でたるものなれば慰諭して之を環し其后能く調査を遂げ其の最なるもの四十三戸へ更に下付を申出てし所漸く聞き濟みありたり元來大字三本木は水田多からすと雖も古田新田も少なからざるなり然るに支村なる失神中楸に些か八戸へ下付されたるに止まり字元村は全部赤貧者なるに一も其の下付なかりしか如き調査の不行届に外ならず（下略）

先づ其の一斑を知るに足らんか只其の町方に於ける窮民は不景気に依りて窮迫に陥り在方の窮民は例年に於ても餘す所なく著らし居りしものが凶作に遇ひて殆んど其の食量の大部分を減じたるより窮厄に陥りたるものにして其の窮困の原因を異にし居り従つて町方の窮民は不景気とは云へ何等かの日傭業を覓め得らるべきも在方の者には此の様なる都合なき故差當り生活のタシキを得難さに苦しみ居るか如し（此頃未完）¹⁶⁾

⑰雑報 凶作地実況（第十七報） 特派員 藤澤生

▲三本木一部の窮民（承前）

本村の窮民に就き市街部に於けるものと他部落に於けるものとの相違は前報の如く目下の惨状等も又篤志家某氏の記録として前報に記せるものと大差なし先づ全体の上より見る時は大字切田に窮民尤も多く此の大字中にて外ノ澤（十二三戸）切田（三十戸位）繁在家（十三四戸）等の部落には困窮者多く宇關口（二十戸位）同瀧澤（十戸位）同久保（八九戸）同夏間木（二十戸位）等之に欠けり字横道（十一二戸）は窮民少なく同豊川（十五六戸）は全部裕かに暮らし居れり次に大字赤沼は大體の上に窮民尤も尠なく大字三本木は又支部落なる元村、中楸に於て窮民少なからざるか如し

◎目下之等の窮民の食料は前報に記せるが如く干菜、大根乃至は稗の玄質のものを多量に用い居るは云ふ迄もなけれど之を三戸郡に於ける各村の窮民の食に比するに遙かに良好にして某の云ふ處に依れば是れ位の食料は先づ甲地、市川乃至は三戸郡の猿邊野澤邊の細民の平年食なりと云ふ由來此の村は村區域廣大にて數多の支部落あるも本村三本木には地方人も多數入り込み随分風俗状態に於て進歩し居るものから支部落民も見るより倣れざるはなしと云ふ有様にて先づ何かにつけ見やう見真似に其の風習を移し居り為めに食物の如きは各部落を通じて十餘年前よりは非常に進歩し平年には中農側にて米七分に粟三分其の以下の者にて米と粟と半々乃至は米四粟六位に割合にて生活し居れり斯く晚近此の村にては食物の程度を進め來りしもの故貯蓄の缺乏を來し居れる矢先き偶々昨年の凶作に遇ひ豫想外の苦痛を感じるに至れるものゝ如し是れ窮

民を出せる一原因なり次に本村の如きも一般に酒癖をもつもの多く市街部三本木の數多き居酒屋にては各部落より入り込む農民にて何時も繁昌を見ざることなかりし有様なりしなり然して此の酒食の為め家を傷けたるものも甚だ前記の字切田同外ノ澤等の部民に悉く多飲の形跡あるもの果たして村内に於て尤も多數の窮民を出すに至りたるが如し之れ窮民を出せる原因の二なり想ふに本村の如き此の二原因なかりしならんには偶々去年の凶作位にて窮民を出すに至らざるべかりしなり

◎本村を通じて去年の米總收穫高は四百七十七石にして平年よりも四千七百十八石の減収なりと又畑作主要雜穀中麦、大豆、小豆、粟、蕎麦、稗に就ては總額三千四百五十一石の收穫にして總減収高は二千百六十六石なりと云ふ之に依つて見れば米に於ては非常に減収なるも他畑作主要雜穀にありてはザツト七分作にして他村に比しては余り口説くかれまじき成績なりとす

◎凶作の影響 として現はれたる現象は本村に於ては一般に不景氣なりと云ふの外特に云ふべき程のこともなし学校生徒の如きも平常に比し出欠席の増減を見ず只村税に於て多少澁滞し居れり斯くて本村に於ける窮民の今後の救済は窮民の割合ひに少なき丈け又村は進歩し居りて種々の事業の多き丈け容易なるべし先づ第一軍馬補充部の如き平常技手八十五人常雇人夫四十三人を使用し居る外毎年使用し居る臨時人夫の如き去年に就て見る時は四月二百二十一人五月三百三十二人六月百八十二人七月百七十九人八月二百四十四人九月二百六十六人十月百九十一人十一月二百二十一人十二月百二十三人（以上一日平均）なりと云へは此の村の細民は之に依りて大ひに生計費のタシキを得らるべく實に他の凶作村落に比しては多大の恩澤ありと云ふべし其の他一村の大勢に於て進歩し居る丈けポツポツ日傭業あり市街部窮民の如き是等に依りても勞金を得るに難からざるべし只本村は部落の廣き丈け救済の目的を以て殖林事業をなし難き形勢にて為めに未だ實行の確定に至らざれど何れ一万圓以上の村債を起して此の際何等適當の救済事業を起すべきことに確定し居れりと云へは今後の本村には遺憾なき救済を見るを得べきか

◎其他本村の有志家はきに窮民救済の目的を以て東京日本橋區龜嶋町穀物商磯の重次郎氏へ旨を通じて一等ラング米六十九袋（代價五百七十餘圓）の購入方を申込みし處同氏は貧民救済の為めなりと聞きて右米價よりは利益を見ずして賣渡され且つ右ラング米に牛莊新搗粟二十袋（代價七十五圓）を添へて部内窮民救済として義捐されたるを以て村有志等は大ひに磯野氏の慈善に感じラング米は原價（十錢に八合）を以て之を究民に賣捌き居り尚ほ磯野氏より義捐されし粟は切派詰りし際に之を分與すべき方針にて保存し居れりと云へは本村究民は外人の救済米もあり旁々安堵し得ることならん¹⁷⁾

⑱ 雜報 凶作地實況（第十八報） 特派員 藤 澤 生

▲大深内村の窮民實況

此の村は三本木村と七戸町との中間に在り洞内、大澤田、立崎、八斗澤、深持の五大字に分れ更らに二十九の小部落を包めり全戸數五百三十餘戸のうち目下外国人の寄贈に係る救助米を分與せられ居る窮民は三十四戸百八十六人にして今後尚ほ百名内外の窮民を増加すべき情況なりと

◎被害の程度 郡村當局者の調査せる所に依れば村内總田反別三百二十三町二反に對する昨年の收穫は些かに十四石にして平年に比し實に五千七百十五石の減収なりと云ふ即ち皆無と云ふて可なるか如し去れどコハ唐突の間に調査したるものなるべく村内の或一部のみても十五六石を収めたる處あるのみならず一般一反歩より二升内外位の平均をもつて收穫ありたりと云ふ村民の言を聞くも恐らくは此の村を通じて六十石位の收穫をなせしものゝ如し次に畑作主要雜穀の昨年收穫は麦作付總反別十一町六反歩より七十七石大豆同二百町歩より九百石小豆同三十五町歩より七石粟同三百五十町歩より千百二十石稗同十五町歩より十石蕎麥同百五十町歩より七百五十石にして之等全体を總括して平年に比較する時は約四千四百石の減収なるが如し此の畑作の收穫は極めて精細に調査せられたるものゝ如く先づ四分作強の作柄たりしなり右の如く本村の田畑作はヨシ米作に於て八十石内外の米収をなせりとするも年中の食料としては殆んど其の料を缺けりと云ひて可なるべく畑作の如きも六分の減収たりし故村民一般苦窮を感じ居るも無理ならぬ事と云ふべし幸ひ本村にては平年に於ては米に次げる必要穀物たる粟作が千百二十石の收穫ありしか故に數字の上よりは可なり其の食料を補ひ得らるべきか如きも而も作付反別三百五十町歩に對する千餘石の收穫なるを考へ更らに本村總人口に比例する時は其の窮乏を醸せる現状は當然生ぜざるへからさりし所ならん兎に角本村は田畑の両作に於て稀有の大打撃を蒙りたるものと云ふべし

◎被害の影響 本村民が一ヶ年中の納稅費日常必需品の購買費は之を米、大豆及粟を賣り出して得る習慣なるが粟に於て多少の收穫ありたる外米、大豆に於て、大減収なりし為め何れも諸費支辨の途を絶たれ其の結果として村民は諸稅を納むるの力なき為め役場の出納事務は殆んど手のつけ様なき始末なりと云ふ（尤も本村は明治34年ころより村稅の滞納は非常に増加し居りし由にてコハ重に酒食に耽る者増加して人民の家計が貧しくなりしもの其の原因なるが如し）次に購買力の減殺せられたるは無論のことにして一部の窮民の如き少し計りの漬物用の鹽を求むるにさへ其の費を辨せざるものありと云ふ牛馬も本村は可なり之を飼育し居れど凶作の結果として昨秋の馬市には牛馬價格は半値にもものぼらざりし故其の影響の如き又甚しく村民の苦痛となりしが如し尚ほ目下部内の山麓に接したる部落により焚炭を産出し居れど不景氣の影響として値段も平年の半價に昇らず到底勞力を償ふの入金を得難き狀況なり先づ之等は影響の尤も顯著なるものなり又部内を通じて七校の小学校生徒の如きも目下多少の欠席數を現はし居れる由なり生徒用教科書の購買力なき窮民の子弟も又少なからざるものゝ如く地租は全部延納出願に及びたりと又本村に於ける被害の影響として現はれたる現象のうち喜ぶべきもの一つあり即ち村内の多數の酒癖者は殆んど其の癖の跡をたてるが如く居酒屋は日に日に其の數を減じ居るもの之なり部落の尊長等は此の機を以て大ひに部内酒癖者を矯正せられたきものなり

◎目下の慘狀 全体の上より見る時は本村窮民の慘狀はほぼ三戸郡野澤の窮民に比し得べきか如し多く餘力ある親類縁者をもたざるもの又は病親や幼兒の三四人も控え居る者尤も慘憺たる窮境に在り其の一般の窮民は補助食料の續く限りは持つ所の粟稗をもととして此の秋迄で保ち得べき情態にして前者の數少なく後者の數多きは云ふ迄もなき有様なり又部内にては尤も慘狀を極め居れる大宇洞内の洞内（三十戸許）及大宇大澤田の芋久保にして芋久保の如き全戸數のう

ち他人の力をかりずに今秋迄で持続し得るもの些かに二三戸他は總べて救済を缺くべからざる状況に在り又部内にて裕かに暮らすし居るは大字立崎にして戸數三十餘戸のうち些かに一戸の窮民あるのみなるが此の部落民は平年の心掛けよく部民に申し合せて酒を慎み奢侈を戒め互ひに貯蓄の必要を話し合ひで早くより萬一の時を慮り居りしが為めなりと云ふ此の部落に次て貧しからぬは大字深持の字梅田十二戸にして此の部落の如き昨年在りては尤も激甚なる被害ありたるもやはり平年の心掛よき為別段痛痒を減ぜずに居ると云ふ中には二名の窮民を出せるもコハ先年火災に遇ひ未だ其の疲弊の癒えざるに此の被害に遇ひたるか為めなりと云ふ(此の項未完)¹⁸⁾

①9 雑報 凶作地實況（第十九報） 特派員 藤澤生

▲大深内村の窮民實況（下）

◎目下の惨況（續き） 部内における部落別の惨況は前回に報じたるが如し然して窮民各自の生活状態を記さんに先づ大体は四和村の窮民よりも一歩進みたる窮迫の境に在り重なる補助食料は稗糠、トコロ、大根を細沫にしたるもの干菜を細沫にしたるもの及藤葛根の澱粉等にして五戸、四和地方の窮民と其の食料の類を同じうせり然して此の村も西部山麓に沿ひたる一二部落の窮民を除くの外蕨根を得るに由なく松皮餅の如きも本村は松木に乏しきを以て之を拵ふるに途なく獨り藤葛根は有益なる澱粉食料の一として此の村に乏しからざるは藤坂、三本木の窮民に比し聊かの幸福なるべし次に他村には未だ其の類を見ざるに本村に入りて初めて見たる食料はメーコとて昆布の根を少々細かく刻みたるものにして之は本郡の東海岸より盛んに賣り出さるるものにして其價は至って廉價なるのみならずヨク煮込みて粥に混する時は粥に甘味を添えゆるのみならず衛生上にも少なからず栄養なるものゝ由此故に本村民は此のメーコを煮込めて粥を造り居れり之れ本村に入りて初めて見たる補助食料の一つなり只此のメーコを多量に用いる時は屢々疝気に悩むとあり現に予の視察中メーコの為めに疝気を起したりとて顔色を青褪まし居る老人二三名を見たり次にクラボの木も又本村に入りて初めて見たる窮民補助食料の一つにしてコハ矢張澱粉を造るべきものなりと云ふ先づ右種の補助食料を多量の食料とし之れに少量の外人救助米をモトにして粥を造りて之を啜り居るは本村窮民の過半にして多少粟稗を所持し居る者は中飯丈け飯とは先づ名許りなれど飯らしきものを焚きて之を食し居れりコハ労働に空腹を感ずること夥しいければ粟、稗は惜しけれど飯を炊くなりと衷情慟むべし次に窮民の身邊は三戸地方中山麓に接したる被害地の窮民に比してはあまり見苦しからずコハ國道か近くもあり旁々民情風俗の少しは進歩し居れるが為なるべし尚ほ予は視察の行程につかざる十數日前此の地方（重に大深内、浦野館、天間林）にては粗食の結果腸カタル盛んに流行の由風聞して之を當時の紙上に掲げ當局者の注意を促したることありしが今現に本村に來りて之を調査したるに一二腹持ちが悪るしと云ふ者ありしか腸カタルに臥したる患者なかりしとの事にて予は呆然たらざるを得ざりき即ち凶作地方の者が或は他の憐愍を乞はんが為めに斯かる處説を傳へたるものに非らざるかを思ひたればなり然し現にメーコに疝気を起しおるもの菜葉や稗糟に腹持ちを悪くして顔色を悪くし居る老人などの少なからぬは事實にして今後暖氣の増すにつけ恐

るべき現象の出づるなきを保すべからず若し地方窮民が食の缺乏の苦痛と流行的疾病の苦痛との二つに依りて迫害せらるるの不幸に立ち至らば實に大惨事の現出を見るに至らん當局安閑として居らるるの場合に非らずと信ず

◎要するに 本村にも遅緩亡き救助を施さざるべからざる窮民尠なからず之等の者は一目して其の救済の急を知るに難からざる窮境に在り他の一般窮民には村郡乃至は縣當局は何等かの労役的救済の方法を講ずるに如かさるか如し又本村のみにての救済法は曩に本村民の美舉として報じたるか如く村内の餘裕あるものは此際倉開までしてなりと自村窮民を救済し斯くても續かさる時は初めて他府縣の洽樹ねき慈善を煩はすべしとの主旨より先づ村會議員の側か集合して此の快舉を立るに決し更らに村内の餘裕者を勧告して實行を期すへしとて目下村會議員等は非常の盡力中なれば本村は蓋し救済の良成績を見るに至るべく願はくは此の美舉をして一時の口聲に終らしむるなく多少の障碍を排除して快舉の遂行を期せられたし然して他凶作村落の餘裕者も此の勇氣に鑑みる所ありて可ならん只此村の此團體の餘裕者に望む足下等の美舉に遺憾なる結果を伴はしむる勿れ即ち自村の窮民に食はしむると共に働らかしめよ無智の窮民は安きに望んでは得て怠り易し足下等宜しく窮民の口と心と両つながら救済するに失念する勿れ次に本村にては造林は可及的廣く行ふ筈にて補助外の費用の大部は之を村有基本より借り入れる手筈なりと云ふ次に本村にては此の際牧草栽培の開設事業を起す筈にて幸ひ三本木の軍馬補充部支部も近きにあれば村会は必ず之を断行の意見なりと云ふ尚ほ桑の仕付の如き今後は村民各自へ多少の補助をしてなりと行はしむる計畫の由なれば本村は此の附近各村落中尤も完全なる救済を見る近きに在ることならん且つ本村は縣債土木工事施行の箇所（即ち沼崎より七戸、古間木より三本木間の停車場道）に接近しあれば手の届く限りは婦女子に其の労金を得るの便宜あるべし只本村の某氏の言ふ所に依れば本村會議員等は總て自稱物知りのみなれば事業としては屢々良案を案出せらるるも其の實行如何の決着に至りては徒らに枝葉の議論に時を移して遂には互に感情を損ひ多く其の實行を見ざるが常なりと云へは此の際有志者は大ひに自警する處ありて救済上の良計畫をして龍頭蛇尾に終らしむることなきを望まざるを得ず即ち平常と異なればなり

19)

⑩雑報 凶作地実況（第二十報） 特派員 藤澤 生

大深内村の窮民視察を了へて後ち七戸郡役所に村上郡長を訪ふ其際同氏の語れるものに就き其の大体を奉ぜんに

◎永々の御視察御苦勞の事です、日々紙上にて隣郡（三戸郡）の窮民状況を承はり居れり、随分ヒドイ所も有る様ですが、大体救済の急を要する窮民は少部分に過ぎぬ様ですね、ソレは私等も當然の現象たらうと考へ居るので、私の郡も先づソナナ者です

◎先づ私の郡に於て被害程度の甚たしい村落を順序から申せば、先づ最もヒドイのは浦野館、大深内、天間林、三澤、甲地とか云ふ順序になって次いで四和、六ヶ所、七戸、法奥澤と云ふ風で九ヶ村は先づ随分の被害を受けたので、随って惨情も烈しい様です

◎目下窮民の食って居るものは新聞で見る三戸郡の諸村落と大差がない様で、只一二彼郡に在る

食料が本郡にはなかつたり、本郡にあるものでも彼郡になかつたりして居る位の相違に過ぎぬ無論少量の穀類に多量の補助食料を加へて凌いで居るです、平常の住居や身装は別段平年と異りある筈がないです

◎私等は窮民騒きはじつに好ましくないのです、好ましくない所が今回は大不面目を感じて居ります、ソレモ三年も四年も不作を続けた上ならば、眞に天為の致す所、又如何とも致方がないですが、此の數年間は無類の豊穰を続けて居ったのです、夫れに遇々昨年位の不作を蒙ったからとて騒ぎ出したり、他人の助力を乞ふたりするのは誠に意気地ない事で面目次第もないことです

◎云ふ迄もなく困って居る者は澤山ある、速かに救済を施さなければ生命にも関する様な悲境に陥らねばならぬ者は少なくはない、が夫れ等の窮民は平年の心掛けの悪い者が多い様です、即ち口に手足かまける程の多数の老人幼者の家族多い家や病人のある者は無論困って居るが、窮民の多数は平常の惰民に多い、御承知の通り此の地方は一般に酒癖があつて困ります、賭博の悪風があつて困ります、酒を呑めないものは男の資格を欠いている様な考を持って居る…イヤ男許りぢやない、女にも酒を呑む方の者が多いのです

◎之れが証據に各村とも人一倍の田畑を持って居る者でも、平常癖が悪い者が今回多く困って居るし、田畑を些か許り持って居る者でも平常心掛けが善い者は今年位の不作にはソレは平気なものです、是れから本郡内を御視察すると其の實況は瞭然として御釋りになることと信じます

◎先づ斯様な譯で、今では大一回窮民よりも、是れから生ずる第二の窮民の方は眞に世人の同情すべき者です、即ち第一回窮民に調査せられたる者は、平年怠惰だから昨年位の不作で直ちに困り出したからであるし、是れからの分は平常心掛けがよいものだから、當時は多少の穀物を持って居るで、窮民の數には入らなかつたが、ソローへ貯もなくなるにつけ、段々困り出す眞に慙むべきものです

◎郡の救済方針としては別に今の處では定まって居りませぬ、只目下の處では縣訓示に係る殖林事業は各村を通じて飽迄實行させるつもりです、又県債工事も本郡は縣直営全部で一万八千二百餘圓ですが、各村の窮民をば勉めて出役せしむる積りです、イヤ起工の時期を失しませぬかとの疑は尤もです、私も實際郡下農民に就て疑へて見ても、慥かに時期を失した点がある、もう農繁の時期が熟して居りますもの、田うちがもう初まっていますよ…然し工事の事たるオイソレとやるゝものではないです、調査に調査を重ねても屢々弊害が起るで、縣當局者も止むを得ず延したのでせう

◎延びたのが致方がないとして、各窮民とも一人や二人はちよゝいへ出役が出来ると思ふです、尤も農繁期節には各農家ともイクラ家内があつても手足らじを感じるもの故、是れからの出役は随分面倒です、然し此の場合たから内に残る者も人一倍働く考えを持たんければならぬし、工事に出る者も家を顧みて精々働けば、夫れて両全することが慥かに出来るです

◎学校の事ですか、郡視学がよく調査した積ですが、是れぞと異りかない様です、無論常よりは多少の欠席があるでせうが、憂ふる程でもありません、中飯の携提の困難の者多きを致す場合には、断然半日教授をやらせる考へです

先づ村上郡長の話されたるは大略斯の如し同氏は昨年位に依りて郡内より多数の窮民を出

せるは甚た耻づべきことと思為し居れるが如し至當の見解と云ふへし只其の本郡に在りては郡事業としての救済のことは未だ一も劃策せられ居らざるは遺憾なり尚ほ村上郡長は此の機を以て郡下村民の酒癖を矯正し勤儉貯蓄の風を奨励すべき考案を有せりと云へば今回の凶作或は本郡十年後の幸福ともなるべけん次に同氏に就き聞知したるものにして傳ふべきもの一二にして足らざれどソは各村に就き實際を見つゝ其の序に報するの都合よきに如かざるが如し村上郡長に就きて前述の話柄を交へ更らに篠田郡視学に就きて一般に於る学事の状況を質し弓木郡書記に就て郡下一般の収穫状況を聞き役所を辞し本郡に於ては被害烈しく窮民の惨状亦甚しと聞ける浦野館に向ふ²⁰⁾

㊦雑報 凶作地実況（第二十一報） 特派員 藤澤生

▲浦野館村窮民実況（上）

本村は七戸より沼崎停車場に達する間にあり部落の大部分は此の停車場道に沿ひてあり大浦、新館、上野の三大字十六部落を包む總戸數五百八十八戸のうち目下外國人の救済米を給與せられ居る窮民は四十一戸二百三十一人にして外に百三十余戸八百人内外の細民ありて是等の者も今後何等かの救済を施さざれば或は衣食の窮迫を訴ふるに至るへき気配ありと云ふ蓋し本村は縣下に於ては尤も被害の程度を高めたる地にして其の惨情も又郡中第一に甚しきものありと傳ふる所なり

◎被害の程度 米作に於ては水田總反別四百四十三町七反に對する昨秋穫高は些かに十石先づ皆無作云つて可なり只聞く所に依れば平年に於ける本村は郡中尤も豊穰の地にして舊南部家の如きも此の地には尚ほ多少の田地を所有し居るもの畢竟南部中の豊穰地として有名なるか為めなりと云ふ斯の如く元來が作柄の良好なる地にてもあり且つ大深内村に比し地形その他の点より見るも慥かに全村以上の収穫なかるべからざる理由なるが反別に於て多きも収穫に於てすくなかりしは疑問なり然し仮るに一反歩より二升の平均収穫ありしとするも全体にて些かに八十八石餘殆んど年中の食料を補うべきに非らざれば被害の程度に於ては依然激甚なりしと云ふ外なかるべし次に主要畑作物の昨年収穫は麦、大豆、小豆、粟、稗、蕎麥等の平均に於て些かに三歩五厘の収石ありしのみにて中に就き粟は他の雜穀に比し多少収穫の成績よかりしのみ也と云ふ先づ本村の昨年作況は斯の如くして稀有の大打撃を受けたるに相違なく郡中被害地の第一と稱する故なきに非らざるが如し

◎被害の影響 尤も顯著なるは窮民に関する役場事務の増大したる事なるか如し予の同村役場を訪問したる時（午前十一時頃）も三十名許の農民は小使室に集まり何事か協議中なりしが稍々ありて三名許り宛村長の前に伺候して救助乃至は種籾の下附を乞ふなりき日はく『私の所には何物もなきにナゼ助けて下さらぬナゼ種籾を下げて下さらぬドウゾ助けて下され…』異口同音に憐愍を訴ふる有様殆んど手足の不自由なる乞丐の状あり而も彼らは腕つよく足は健に肉の程よくかかれる壯者なり壯者にして殆んど乞丐の陋態をなして耻とせざる所寧ろ□焉すべきものなりと雖も而も昨年の凶作が斯く農民の心性に迄も影響したるをおもはば凶作の如何に甚しかりしを知るに足らんか只其のうちに犬と云はれて貰へばよ的の農民も甚だ尠なからぬは歎すべき

ことなりとすサテ本村は斯くの如く現在救助を受け居る窮民以外にも多数の窮民ありて折かな暇かな役場に押しかけ憐愍を乞ふて止まぬより役場の事務の増大又は遅滞すること甚だしく村長とも七名の役場員は殆んど手の出づる所を知らざるものゝ如し次に影響の大なる本村もヤハリ米、大豆を賣り出して年中の諸費を得るの習慣なるが何れも皆無と云ひて可なる有様故全く諸費支辨の途を絶たれたるが

如く細民は為めに非常の苦痛を感じ居れるが如し且つ本村には山林と云ふもの絶えてなく平年に在りては他村より薪炭を買ひ求めて需要に供し居りたるもの故今年に至りては之れらのものを購ふべき費用なく目下はツマラぬ灌木類の枯れたるを手折りにて燃料に供し居るか如くコは本村に於ける影響としては尤も苦痛を感じ居るか如し馬の如きも産地の一として數へられ居るも他村と一様價格下落の為め思はしき捌かたを見ざりしと云ふ学校はは部内を通して五校大抵半日教授をなし居る由にて是は即ち中飯の携提に困難なるが為め也教科書も各校を通じて全生徒の三分の二程所有し居らぬ有様なるが然し中には資力あるものゝ子弟も販賣所なき為め求めたくも求められずに居るが多しと教員役場員俸給の如きも二三ヶ月間は支拂を遅滞したることありしが幸ひ他より埋め合せて目下の處にては全部支拂を了したる由なり先づ全体に於ける村治の困難に陥入れる影響の最も大なるものゝ如く目下の諸税滞納額は四百戸にて千三百六十圓に上れりと云ふ

◎序て故此の項にて報ぜんに予の役場を訪問中詰め掛け居り市し農民に對しては村長は随分の老人なるか仲々鑿鑿活発の人にて情理の二つを以て慰諭し下附せぬも救助せぬも夫れ一への理由のある事なれば先づよく一働いて居るがよしあまり窮迫に陥いらぬうちに實際困って居るものには必ず方法を講ずべしとて稍二時間もかかりて三十名許の細民を説き返へたり嘗つて東部の某新聞紙は此の村の村長は晝夜の分ちなく窮民に押しかけられ十數日間殆んど一睡し得ざる有様に目を病むに至れりと報じたるがあるもソは眞實までは非らず眼を損ひたる形跡は少しも認むるを得ざりき但し村長自身の言に依れば朝の六時頃よりソ一押しかけられ午後の六時迄入れ替り立ち替りして役場に細民の姿の絶ゆる時なしと是は事實なるが如し²¹⁾

②雑報 凶作地實況（第二十二報） 特派員 藤澤生

▲浦野館村窮民實況（中）

◎目下の慘状 大体の上より見る時は大字上野尤も慘状を極め新館、大浦之れに次げるが中に就き大浦の宇新山十餘戸丈けは一樣に困窮者なく先づ昨年の凶作より來れる影響以外に在るものゝ如しコは此の部民は平年に於て酒を慎み賭博の悪風を矯め家業大事に心掛けて萬一の時を忘れざりしに依るなりと此の現象は三戸、上北両郡の各村を通じて殆んど其の帰趣を同じうせり斯くて被害慘状の甚たしき郡中第一と僞しおる本村の窮民は目下如何なる食料に依りて糊口を凌ぎ居るやと云ふに四和、大深内諸村の窮民の食し居るものとは敢て格段なる差異なきも窮民の大部分は一擔の粟稗をさい所持せぬが多き丈け粗食の程度も随つて高きか如し先づ老幼者又は病人等手足の不自由なる者一日一人二合五勺の割にて救與され居る外外國米に多量の補助食料を加へて飢えを凌ぎ居る有様にて補助食料としては稗、糠、トコロ、河原蓬等の外本村には蕨根、

藤葛根の澱粉食料も多少は其の需要を満たし居る由にて現に窮民居宅の邊には各戸毎に蕨根藤葛根の糟か打ち捨てられてあり其の他村には其の類を身ざりしが本村に入りて初めて見たるはカトーと云ふものなり恰も蓮根と類を同しうせるものにして菴地や沼池に生じ味ひも蓮根に似通へり之は重に大根の輪切り煮の如くにして食ふものなるが大根を細沫にして飯粥に煮込むか如くにして食ひ得ると云ふ兎角有益なる補助食料なるも今の處にては最早や取り盡して一背負ひ位を得るには容易の事に非らずと云ふ次に此の村は他村に比しては一般によく馬鈴薯を栽培し居り昨年は馬鈴薯とて甚だ思はしからざりしが兎に角く少し位は助けになる収穫を得たりし由にて窮民中にも馬鈴薯の藪し宛は之を所持し居れるが多し先づ此の村の窮民等は外國人の救助米に大根干菜の細沫物を加へて粥を造り居るもあり又は稗糠、トコロを加へたるを啜り居るもあり乃至はカトー、馬鈴薯を煮て空腹を満たし居るもありて随分の惨状を極め居れりサレトスの如きは窮民中に在ても少數過ぎずして全体の三分の一位の者なるべし其の他の窮民等は手忠足忠に稼きさいするに於ては何等かの仕事にて日々の食料の半は之を得らるべく且つ之等は多少に拘はらず粟稗を所持し居るが多し只今後は日を積むに近ひ農繁期節に入ることなれば労金仕事はヨシなきにしもあらざるも思ふが儘に従事し得べきや否やは兎角の心配なるべし次に本村窮民中未だ腸加多留に罹りたるものなかりしも粗食の結果腹持ちか悪しと言ひ居るもの四五名ありメーコ（昆布根）は本村窮民も之を食ひ居ることとて疝気に罹り居るも少なからざるが如し²²⁾

㊸雑報 凶作地実況（第二十三報） 特派員 藤澤生

▲浦野館村窮民実況（下）

◎今後の救済 四十一戸二百三十一人の現在救助窮民に次ぐに百三十餘戸八百餘人の細民を有せる本村は今後の救済に就ては窮民の多數なる丈け容易ならざるものあるへしと雖も之等窮民の現状態は前回にも記報せるが如く極窮者と普通のものとの二種に分ち得べく救済の方針も又之れに應じて其の程度を定め得べければ村、郡、縣の當局者を通じてよく適切の方法を講じたらんには先づ遺憾なき救済をなすを得べし然し本村當局者に於ては未だ之ぞと云ふ救済策の定まりたるものなきは遺憾の事にして殖林事業の如き村有山野には適當の箇所なく附近には官有のもの澤山あれど一時適當の箇所と見て借入りを交渉せし所大林區署にては其の他に官業を起す計畫ありとて折角の豫定地も之を借り入るゝこと能はざりしより目今にては植林のことも未定に屬し居れりとの事なり次に本村にては補助食料の供給策として雲雀牧場へ蕨根の採掘を頼み入れし所幸ひに許容する所となりたる為め本村民は此の点に於て少なからぬ安慰を感じ居れるが如し縣債工事より來る救済に本村は工事施行の箇所と接近し居るが故に之に與かるを得べく目下出役出願の窮民は百六十名ありと云ふ又本村にては明治二十二年以来の貯蓄に係る村の基本財産は諸株券田畑價格等に約三千圓近くあり今之を運用して何か將來の利益ともなるべき事業を起さんには一には目下の窮民救済となり一には將來の富源ともなるべければ必ずこれに依りて何等かの事業を起したしと希望し居る村の有志家もあれ奮発の如何に依りて或は此の計畫の好結果を得ることもあるべし況んや此の村は地の利を極め居るが故に諸種の事業に富むをや

牧草燕麦の栽培桑樹の培養尤も適切ならん次に此の村よりは年々數百人の北海道出稼人夫あり今春の如きも約二百七十餘人の出稼ありたれば之に依りて窮民は尠なからず窮渴を支えたるが如しまた本村には特定義捐は稗にて六十俵現金にて六十圓あるが之れは今後窮困を訴へ出るものゝために保存し居ると云ふ其の他本村には餘裕ある者多きか故に親類筋や何かの關係にて窮民の大部分は隨時粟稗の給與を受けて暮らし居るか尤も喜ばしき現象とも云ふべし

◎要するに 本村には窮民多し去れど直接の救済を要すべき者は少なく間接の救済は却って窮民の利益たるべきもの多數なれば當局者には此点に留意して間然する所なき救済策を講ぜられたきものなり蓋し本村は村の大勢上充分此の望みを属す得べきものあればなり

▲天間林村の窮民實況（上）

此の村は七戸より野邊地間の國道上及び大字天間館（役場所在）より乙供に通ずる停車場道とに沿ひて点在せる村にして天間館、榎木林、附田、二ツ森、野崎、中軸、花松の七大字にて二十九の小部落を包めり全戸數六百八十一戸のうち現に外國人の救済物を給與せられ居る窮民は百五十九戸七百九十一人なりと云ふ隣村なる浦野館に比し村區域も廣く人口も多けれど窮民の割合に多數なるは別に理由ある事なるべきか何せ此の村は先年來村治の上に種々なる出来事のみあり過日開催せられたる同村會の如きも凶作を名として教育費全部否決など縣下未曾有の決議などせし騒ぎありて未だ其の帰する所を見ざる等の八窯敷き村なり

◎被害の程度 水田總田反別五百四十九町三步に對する昨年収穫は些かに五石のみなりと云ふ即ち皆無作と云ひて可なるべし去れど此の村の實際収穫も假りに此の地方一般の収況として一反歩二升平均とすれば百石内外の實収高なりしならんか然れども年中の食料より見る時は云ふまでもなく皆無作の影響と異りなき所なりとす次に畑作重要雜穀の昨収穫高に麦、大豆、小豆、粟、稗、蕎麥等の平均にて約三分三厘作なりと云ふ依つて見る時は本村に於ける畑作も又非常の凶作にして村内窮民現はれ衣食の急を告ぐるものあるに至れる平年酒食の弊風盛にして貯蓄の何事たるを解せざる村民に在りては蓋し當然の現象たるべきのみ嘆ずべきことと云ふべし

◎右の情況に依りて見る時は被害の程度は浦野館よりも更らに激しかりが如し即ち浦野館總反別四百四十三町七反に對する収穫十石（之れは村吏の調査にて實収高に非らざる如し）に比し本村は總反別四百四十九町三反に對し五石（此の調べも然り）又畑作に於て浦野館の三分五厘に比し本村は三分二厘作なりしなり以て浦野館よりも其の被害程度の高かりしを知るべし而も郡當局者の調査に依れば窮民の慘況に於て本村は浦野館の次位に在りと云ふ果して然るべきが²³⁾

②4 雜報 凶作地實況（第二十四報） 特派員 藤澤生

▲天間林村の窮民實況（中）

◎被害の影響 昨年凶作の影響として本村民地租延納出願は全部其の手續きを運ぶにとり村税其他の滞納額は目下千六百圓の多額に上りたるため一時は教員役場員の俸給支拂を遲滞せしか中頃他より繰合はせて漸く其の處分をなしたるものゝ目今にても之れ等の給費支辨には非常の苦痛を感じ居りて役場の出納事務は殆んど手のつけられ様もなき有様なり米作は皆無畑作は六分七厘の減収なりし本村に於て此の影響は蓋し當然現はるべきものならんも其の程度に於て

豫想外の激甚を致したるもの他に之れが原因あるものゝ如し次に此の村の村民も大豆、米、粟及び牛馬を賣りて年中の諸費に充つる慣ひなるが前記の如き始末なるが故に生計上必要缺くへからざる諸費用支辨の事には多大の窮乏を感じ居り中家と併せらるるものゝ如きも味噌用の鹽を購ひ得ずに昨年秋の煮込に係る玉味噌を今尚ほ其の儘に吊るし置くも少なからず(此の地方の味噌の造り方は津軽地方と異りて毎秋豆を煮たるものを搗きて玉に丸め之を梁に吊し置きて翌春更らに鹽を混じて搗き改むる也)其の如き状況なるが故に村内を通じて五個の小学校に二個の分校生徒は多く新学期に用ふべき教科書を授けられず一冊の書冊を生徒生徒五六人にて用ひ居る有様故教育上の困難は申許りなき状況にして之れには教員も混迷の姿なりと云ふ生徒の中飯の如きも各被害村と同一にして思ふに仕せず通学区域の廣き部落の学校は半日授業の止むなきに至れりとなり次に窮民に關する役場事務の如き非常の増大を來して為めに通常事務の停滞せる恐らくは本村第一位に在るが如し隣村の浦野館の如きも役場事務は名状すべからざる程の混雑を呈し居れど本村は尚ほ更らに甚たしきものあり之れ窮民の數も多く平常とも村民中に八窯敷きもの多くして村會と云はず區會と云はず何の寄合何の會合と云ふ場合には必ず衆論異説沸騰して何事も円満に決する所なき悪習ある等にも依り自然一介の農僕等に至るまで概してヒネクレたる感情を持ち居るか為めなるべし序て故に本項に記報して少しく本村民の注意を乞ひ置かんに過般開催せられたる本村の

◎三十六年度村會 は總ての費目に於て殆んど一村の行政□□を運用し得べからざる迄に減削し教育費の如き全部否決して省みる所なかりしなり然して其の理由とする所は即ち凶作の影響激甚にして村民は到底其の負擔に堪えべからざれば最も多額なる教育費を本年度丈け支出せざるべしとの事に外ならず想ふに教育費全部の否決は國民教育全廢の決議に外ならず失當も又甚大だしと云ふべし而も村民を通じたる實際の資力に於て果して其の負擔・堪えざれば即ち止む些々たる村吏員と村會との感情的衝突に依りて尤も重大なる國民教育を輕率にするか如き不明此の上もなきことならずや聞く本村民は其の資力に於て遙かに大深内、浦野館二村の上に在りと云ふ此の村にして偶々昨年程度の凶作を以て教育全廢の理由とするが如き無責任の責は免かるべからざる所なるべく更らに村の面目上好ましからざること也とす現に郡當極者も此の事に關しては大ひに其の不當を認め居り断然原案施行の方針を確定し居れり之にて教育上幸ひに大事なきを得べしと雖も此冷淡なる村會に依つて帰趣し居る本村教育事業は甚だ好望に非らざることと云ふべし特に其の反省を乞ひたきものなり元來事の起りは村長と一二村會議員との感情の行違の上より起りたることにして之れが為め村の有力者と呼ばるゝ者が□ひに二派に別れ互ひに反目の姿となれるに過ぎずしてホンの起りは恰かも戯兒に類したるが如きも□なりしと云ふ斯の如くして教育費全部否決も實際負擔に堪えざるに原因したるに非らず單に村長苦しめてやらん位の調子にて此の失態も現はせるなりと返す返すも嘆ずべきことにして更らに村治者反省を促かしたきものなり且つかかる失態を敢てせる議員諸氏も此の際充分の責任を負ふべく村長も亦兎に角快断を以て此始末の料理をなしたる以上は潔よく責を負ふて可ならん然らざれば多年の病根は到底全治の見込みなく絶えず騷擾を來すべければなり右は此回の窮民騷を好機として急に持ち上りたる尤も大なる影響にして今尚ほ其の落着する所なく村民の帰趣に苦しみ居る

所なりとす

◎其他の影響 として本村に現はれたるは窮民の大部分は甚た□□にながれたることなり即ち依頼心一方に傾きて現に或る窮民の如き予に向つて臆面もなく『ハイ此の際何は持たぬ者は却って仕合せですアレは貰ふことは出来ませぬし又貰って食ふ程楽なことはありませぬ私は些か許り粟を持って居ったのでイクラ願つても米を下げて下さらなかつた残念でタマリません』と何其の不甲斐な期の甚たしきそ貰えなかつたが残念と乞丐となれなかつたか残念なりと□ふ所なきなり予は此等窮民の精神的救済の眞に焦眉の急なるを思ふ而も斯の如き現象は本村のみに限らず一般凶作地を通じたる現象なるが故に更らに重大事と思ふなり次に影響として窮民の金廻りの止りしによりて目下は殆んど□斃れを見ざるに至れるは多少喜ぶべき良影響なりとす²⁴⁾

㊸雑報 凶作地實況（第二十五報） 特派員 藤澤生

▲天間林村の窮民實況（下）

◎目下の惨況 一般の惨況に於て本村は隣村なる浦野館の右に在るが如し郡役所に就きて聞知したる所に依れば郡下を通じて惨状尤も甚たしきは浦野館にして天間林は之れに次ぐとありしが實際の被害程度と現下の惨状とは二つなから後者は前者の右にあるが如し蓋し數字の上に現れたる昨年収石高と積年來村治の紊乱し居りし原因とに依り當然の現象に外ならず七大字中大躰より云ふ時は野崎、中軸、花松、榎林の四大字は割合に成績よく大字天間館同附田同二つ森の三大字は他大字に比し惨状の程度を高め居れり支部落に就て見る時は天間館の天間館は部民一般に裕福に暮らし居り野崎の野崎、花松の一部中軸の一部及天間館の秤等は随分惨状を極め居れりと聞く天間館の天間館は此の四五年以前迄は部民孰れも酒に耽りて擧げて家族を顧みるものなく為めに年の豊凶に関せず『貧乏村』と稱られたりしが中頃大ひに戒むる所ありて相共に酒を慎み驕りを避け野菜に限らず藁細工に限らず一厘にても賣れるものは之を七戸町に□きて専念貯蓄を旨としたる為め目下の處にては何れも多少の貯穀なきものなく昨年の凶荒は此の部民に些の影響なきものゝ如しと凶荒一歳に出でざるに窮渴を訴ふるがごとき平常の心掛けよからぬ者の謂なることは之れにても知らるべし然して本村窮民は現在如何なるものを食して糊口を凌ぎ居るかと云ふに平年ならば普通米四分粟六部の割合なるが昨秋以後は窮民以外の者も普通米二分粟稗取交せ八分の割合にて食し居り更らに窮民と稱せらるゝものは米と云へば外國人より給與せられたるものに過ぎずして之れに大根、干菜の細末物やメーコ乃至は稗糠を加えて粥を造り三飯を凌ぎ居り労働中空腹を感じる場合はカトー又はアモ等を食ひ居れり即ち粗食の点に於ては浦野館大深内乃至は三戸郡の各凶作村落と格段の差違なした本村は雲雀牧場より蕨根の採掘を許され居り且つカトーにも乏しからされは補助食料に於て差したる困厄を見ざるべく馬鈴薯の如きも本村は浦野館と同じく多少の収穫あり次に一般窮民の居住の有様は部落の多くは停車場道及び國道に沿ひおるものからあまり見苦しからず三戸郡下の窮民に比し遙かに見栄よき状況なり

◎今後の救済 殖林事業は縣補助のみにて事足るへき筈もなければ何れ多額の村費を支出せざるべからず然してこれか負擔は到底村民の堪える處に非らずとて□□□□せる村會にては教育

費と共に否決せるが其後再舉見込なく何れ企業の運びにいたらざるべしとのこよなど先づ本村は村會の統一を缺き居るが上村長に反對する者多き為め數年前より村治の紊乱甚しく随つて此回の凶作に對する救済の事も村の力になるべきものは一も劃策し居られざるなりヨシ劃策するも其の策の良善惡に不抱到底成効すべき見込あるにも非らざれば誰もつて進んで救済事業を講ずるものなく何れも放任主義と云ふ具合なり斯くて本村に於ける救済上の事は今春四百二十餘人の北海道出稼人夫を出したると村は縣債工事施行の箇所と接近し居るよりこれは出役を願出でたるもの百餘人ありたると及び野邊地の有志家より特に寄贈せられたる粟、稗各口十俵宛と現金五十五圓とあるのみ村有財産として山林七町九反余原野二十六町六反余水田一町二反余軍事公債券額五百圓口口銀行株券千三百圓及現金四百七十餘圓あれど村治は紊乱し居るのみならず村會統一なき為め此財産を運用して何か現在の救済に資したる上更らに將來の財源ともなるへことを企つるの運びにも至らざるへし

◎要するに 郡縣當局者たるもの本村に對しては充分なる監督をなさざれば村治紊乱の弊は益々増大すべくしたがって窮民救済の事も其の完了を期し難かつへし故にこの点に關しては必ず閑過するところあるべからずつきに本村の窮民は百五十九戸七百九十餘にんの多数を以て稱し居れと中に就き外人の救済物盡ると同時に直接の救済を要すべきものは全体の四分の一弱にも當らざるへければ此の点に關しても十分注意する所ありて夫れ相應の方法を構図せずんばあるべからず²⁵⁾

㊤雑報 凶作地實況（第二十六報） 特派員 藤澤生

前回にて上北郡下の凶作村落中四和、藤坂、三本木、大深内、浦野館、天間林の六ヶ村を報じたるが本郡に於ける

▲其の他の窮民地

として視察の必要ある村落は三澤、甲地、六ヶ所、法奥澤及七戸の五ヶ村ある由七戸郡役所にて聞知したるも都合上一先づ天間林にて視察を了へることゝしたり右五ヶ村のうち三澤、甲地及六ヶ所の如き随分慘状を現はし居りて其の窮境浦野館天間林諸村の窮民と大差なき由なり之等數村につきては更らに視察をなして一般に其の状況を報することもあるべし

◎要するに 本郡下凶作地の窮民状況は衣服や住居の状態に於ては三戸郡下の凶作地よりは良好なり去れど食料の点に於ては寧ろ三戸郡下の凶作地窮民の用ひ居るものよりも更らに甚たしきものなり然して三戸郡下の窮民は比較的意氣消沈して只管他人の助力を乞はんとする考へを持ち居るに反し本郡下の窮民の比較的惡ダカシキ性に富みて他人の憐愍を惹くに上手なるが如し共に甚た喜ぶべからざる現象なれば地方會長なる者大に戒口督励して之等の細民をして骨力の続かん限り家業にいそしましむる風習を養はれ度きものなり然らざれば後日或は凶作よりも更らに甚たしき驚荒を來すことなしたるも限らざるべし只夫れ此の民をして其の息を斯くまでに消沈せしめ斯くまでに惡ザカしくせしめたるもの畢竟するに被害程度の甚たしくして食ふに料なき所よりでせしめたるものとすれば其惡風を憎むよりは其の惡風の依つて來りし苦窮を思ふて彼らを救済し彼等を奨励するこそ恰く同胞の分なるべけれ誠や『彼は盜心あり飢たればな

り』てふ諺もあるなり其食に乏しくして況や窮民の意気消沈したるが如き當然の現象に外ならず願くは彼等の弊を咎むるよりも彼等の弊を矯正するに勉めたきなり

◎之にて三戸郡及上北郡下の凶作地視察を一先づ終れり記報すると二十六日間各村の状況多く大同小異にして之れか状況を報するに當り記事千編一律に流れたり誠に止むなき所なり然して記事中何村の誰か如何の悲境に在り…誰は如何の窮状にありなど各村窮民に就き一々其の姓名を記して各戸の状態を報せざりしは一々之を報ずるよりも更らに之例外に報せざるべからざることのあまりに多かりし故也連日の報道は即ち此の旨に出でたる筈なり読者幸ひに本縣の窮民も今如何の生活状態に在るかを知りたるならん詮する所凶作地窮民は愍はれむべきものなり然して各村とも速かに救助せざるべからざる窮民は即ちありサレトスの如きはあまりにに多數ならざれば之が救済を施すに當りてはよく其の程度を檢覈して直接間接の適應なる救済を施すか目下の急務にして然して至當なる措置と云はざるべからず尚ほ之等の事に就き予は不日一二の所見を記して敢て當路者の参考に資せんとす²⁶⁾

<注>

- 13) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第十三報）－五戸村の窮民實況（上）－」『東奥日報』明治36年4月15日
- 14) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第十四報）－五戸村の窮民實況（下）－」『東奥日報』明治36年4月16日
- 15) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第十五報）」『東奥日報』明治36年4月17日
- 16) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第十六報）」『東奥日報』明治36年4月18日
- 17) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第十七報）－三本木一部の窮民（承前）－」『東奥日報』明治36年4月19日
- 18) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第十八報）－大深内村の窮民實況－」『東奥日報』明治36年4月21日
- 19) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第十九報）－大深内村の窮民實況（下）－」『東奥日報』明治36年4月22日
- 20) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第二十報）」『東奥日報』明治36年4月24日
- 21) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第二十一報）－浦野館村窮民實況（上）－」『東奥日報』明治36年4月25日
- 22) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第二十二報）－浦野館村窮民實況（中）－」『東奥日報』明治36年4月29日
- 23) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第二十三報）－浦野館村窮民實況（下）－」『東奥日報』明治36年4月30日
- 24) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第二十四報）－天間林村の窮民實況（中）－」『東奥日報』明治36年5月1日
- 25) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第二十四報）－天間林村の窮民實況（下）－」『東奥日報』明治36年5月2日
- 26) 特派員 藤澤生「凶作地實況（第二十六報）」『東奥日報』明治36年5月3日